＜STEP2 事例　優先度の高い環境行動の実施＞

SDGs 活動の促進が企業のブランド力向上に寄与（小川珈琲株式会社）

取材日：2024.10.24

Q　取り組みの背景・きっかけ

A

・1952 年創業当時より本物のコーヒーをお届けするため、原料である生豆選びには特にこだわりを持って取り組んできた。原料選定のため、小川珈琲のコーヒーバイヤーが産地に直接訪問することが多くあり、農園主と意見交換を図る中で、品質の良いコーヒーを継続的にお客様に提供するためには自然環境や産地で働く人を守る活動が大事だと感じた。
・活動の一環として、有機コーヒーの取り扱いを 1995 年にスタート。「SDGs」「サステナブル」という言葉が普及していなかった時代から「コーヒーの品質とおいしさを確保しながらサステナブルな方法を選ぶ」ということにこだわり続けてきた。
・その後も京都工場で 2001 年有機 JAS 認証を取得。2004 年国際フェアトレード認証コーヒー、2005 年バードフレンドリー®認証コーヒー、2017 年オランウータンコーヒーの取り扱いを開始。

Q　取り組みを進める上で工夫したこと・苦労したこと

A

・まだ認証コーヒーが一般的に流通していない頃から取り扱いをしていたため、認知度の低い認証を広めることには時間を要した。その中で 2015 年に国連で SDGs が定められ、当社で取り扱ってきた認証コーヒーも SDGs という枠組みで整理し、発信することで一般のお客様にも伝わりやすくなると考え、2018 年「京都 小川珈琲 SDGs 宣言」を発信。また、より SDGs の活動を推進するために社員一人ひとりが自分ごととして、取り組んでもらいたいと考え、2021 年に「SDGs 推進委員会」を発足。社内の幅広い部署から委員会への参加を募集した。

Q　取り組みの内容・成果とメリット

A

・近年は一般的にエシカル消費が注目される中で、当社が長年認証コーヒーへ取り組んでいることが認知され、業務卸や家庭用昇進としても引き合いが増えている。また、当社の SDGs や認証コーヒーの取り組みが、エシカルに関心の高い若年層が興味を持つきっかけになり、採用場面でも成果がでている。
・SDGs 推進委員会発足後は委員会の活動を通じて外部とのつながりも増え、様々な活動に広がっている。また、社内で SDGs アワードを設け、社内での SDGs への気づきも増え、幅広い部署で活動に参加する動きができつつある。

（撮影日:2023 年 7 月 3 日）

・活動の一例として、コーヒー麻袋のリサイクル、コーヒー抽出後の粉をキノコの菌床へ活用する取り組み、廃棄するブルーマウンテンの樽をテーブルにアップサイクルする取り組みなど様々な活動につながっている。

小川珈琲株式会社（代表取締役社長　小川 秀明）
京都市右京区、従業員：１７８人
事業内容：コーヒーの製造および紅茶、コーヒー器具、輸入食品、喫茶材料の卸、販売。
（https://www.oc-ogawa.co.jp/sdgs/）